

静岡市オクシズ地域おこし計画中間案 パブリックコメント用

意見募集期間

平成 28 年 1 月 8 日 から
平成 28 年 2 月 8 日 まで

オクシズ地域おこし計画見直しの背景・経緯

静岡市の中山間地域は、豊かな自然のほか、地域住民が守ってきた文化など博物館ともいえる多様な地域資源の宝庫であり、その存在意義がますます高まっています。そこで、本市は平成 22 年度から 31 年度までの期間で「静岡市中山間地域総合振興計画」を策定し、地域振興施策等を実施してまいりました。

また、平成 22 年度には、中山間地域の愛称として「オクシズ」を採用し、積極的に情報発信してきたところ、市民の理解が深まったことで、その基本理念として 27 年 4 月 1 日から「オクシズ地域おこし条例」を施行いたしました。

そこで、同条例の施行や南アルプスのユネスコエコパークの認定を含め、様々な内的、外的要因に伴い、現計画の見直しの必要が出てまいりましたので、計画の期間の折り返し時期である今年度、一部見直しを行うとともに、名称を「静岡市オクシズ地域おこし計画」に改正することとなりました。

なお、上位計画である静岡市第 3 次総合計画の前期計画が平成 30 年度までであることから、オクシズ地域おこし計画もこれにならって平成 31 年度の終期を 30 年度までに改めます。

計画見直しの背景

オクシズの現状と存在意義の高まり

オクシズとは…

- ・オクシズは、市域の80%を占める静岡市の中山間地域
- ・優良な農作物の生産の場であるとともに生活の場
- ・森林や農地は国土保全や環境保全など多面的な機能を持ち、集落は古い歴史・伝統・文化など代替性のない魅力と価値を持つ。
- ・都市住民にとっては、リフレッシュするための憩いの場としての役割

オクシズで起こっている問題

- ・農林業の低迷に伴い、都市部への人口流出が進み、急激な高齢化が進展
- ・後継者不足、地域の担い手不足からコミュニティーの存続が危ぶまれる集落が増加

オクシズへの期待

・農林業は森林資源や食の安全の供給源として見直されていることから、オクシズは、新たなビジネスや就労の場として期待されており、その存在意義は現在ますます高まっている。また、都市部に先行して人口減少・高齢化が進むオクシズへの対応は、今後の行政運営の先駆けとしてその試金石となる。

中山間地域総合振興計画の策定（平成22～31年度）

これまでの取組の検証と求められる政策課題への対応のため、第2次静岡市総合計画を上位計画とした10年間の振興計画「静岡市中山間地域総合振興計画」（平成22～31年度）を平成21年度に策定し、中山間地域の愛称を「オクシズ」とした積極的な情報発信など、計画に基づいた振興施策を開始した。

計画に基づき実施した施策の一例

- ・ホームページによる情報発信
- ・集落支援員の配置
- ・おらんとこのこれ一番事業
- ・空き家情報バンク
- ・「柱100本」事業
- ・総合的な野生鳥獣被害対策

「オクシズ地域おこし条例」の施行（平成27年度）

「オクシズ」の愛称を冠した計画に基づいた振興施策の実施により、中山間地域への市民の理解が深まったことで、次の世代に残すべき市民共有の財産としての「オクシズ」の認識が生まれ、その保全や振興の理念を定めるため「オクシズ地域おこし条例」を平成27年4月1日に施行した。

オクシズを構成する井川地域が南アルプスのユネスコエコパーク登録、日本でも有数の在来作物、有形無形を問わない数多くの文化資産が残されていることなど、オクシズが静岡市民のみならず人類全体の宝であることを再認識

計画の見直し（平成27年度）

- ・条例の施行に合わせ、「中山間地域総合振興計画」の名称を「オクシズ地域おこし計画」へ変更するとともに、実効性を高めるための見直しを行う。
- ・当初の計画は平成31年度までであったが、上位計画である第3次静岡市総合計画前期実施計画に合わせ、計画の終期を平成30年度とする。